

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科				
科目名称	応用栄養学Ⅲ					授業形態	講義		
科目コード	302800	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		アクティブラーニング	○
担当教員名	出口 佳奈絵							ICT活用	
授業概要	<p>本科目では、時々刻々と変化する生活環境への適応、身体活動に応じた栄養代謝、栄養状態の評価・判定、そして科学的な根拠に基づいた栄養素必要量の求め方を修得することを目的とする。これまでに学習したライフステージ各期の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を幅広く理解したうえで、分かりやすい説明力を養うことを目指す。</p>								
関連する科目	<p>(履修前) 基礎栄養学、からだと栄養、からだと疾病、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ (履修後) 応用栄養学実習</p>								
授業の方法と進め方	<p>講義形式で教科書とパワーポイントを用いて進行する。授業内の練習問題で理解度を確認する。授業内でグループワークとプレゼンテーションを行う。</p>								
授業計画【第1回】	<p>栄養ケア・マネジメント 栄養ケア・マネジメントの基本的な手法について学ぶ。</p>								
授業計画【第2回】	<p>からだのリズムと栄養 生体リズムと栄養代謝について学ぶ。</p>								
授業計画【第3回】	<p>ストレスと栄養① ストレスに対する生体反応について学ぶ。</p>								
授業計画【第4回】	<p>ストレスと栄養② ストレスと栄養についてグループワークを行う。</p>								
授業計画【第5回】	<p>環境と栄養① 高温・低温環境に対する生体反応について学ぶ。</p>								
授業計画【第6回】	<p>環境と栄養② 高温・低温環境と栄養についてグループワークを行う。</p>								
授業計画【第7回】	<p>環境と栄養③ 高圧・低圧・無重力環境に対する生体反応について学ぶ。</p>								
授業計画【第8回】	<p>環境と栄養④ 高圧・低圧・無重力環境と栄養についてグループワークを行う。</p>								
授業計画【第9回】	<p>運動・スポーツによる生理的変化① 運動時のエネルギー代謝について学ぶ。</p>								
授業計画【第10回】	<p>運動・スポーツによる生理的変化② 運動時の呼吸・循環応答について学ぶ。</p>								
授業計画【第11回】	<p>運動・スポーツによる生理的変化③ 運動と栄養についてグループワークを行う。</p>								

授業計画 【第12回】	ライフステージ別栄養① 妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養ケアについてまとめを行う。
授業計画 【第13回】	ライフステージ別栄養② 新生児期・乳児期の生理的特徴と栄養ケアについてまとめを行う。
授業計画 【第14回】	ライフステージ別栄養③ 学童期・思春期の生理的特徴と栄養ケアについてまとめを行う。
授業計画 【第15回】	ライフステージ別栄養④ 成人期・高齢期の生理的特徴と栄養ケアについてまとめを行う。
授業の到達目標	①対象者の栄養状態を評価する基本的な考え方を理解できる。【知識・理解の獲得】 ②対象者に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な手法を理解できる。【問題解決力・論理的思考力の育成】 ③特殊環境下における生理的变化と栄養ケアを理解し、説明することができる。【多様性理解の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	講義前日、次回範囲の内容について教科書を熟読し、学習しておくこと。(90分)
授業時間外の学習 【復習】	管理栄養士国家試験の過去問題を解く習慣をつけること。(90分) また、普段から食と健康に関する情報に興味・関心を高めておくこと。
課題に対する フィードバック	・ 定期試験は採点結果を開示する。 ・ 授業内提出物は個別にコメントを返却する。
評価方法・基準	①定期試験(80%) ②授業内提出物(20%)
テキスト	栄養科学イラストレイテッド改訂第2版「応用栄養学」羊土社(2022)
参考書	・「日本人のための食事摂取基準(2020年版)」 ・健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学」(南江堂)
備考	毎回の予習と復習は大切である。 学習内容をしっかり記録して、「応用栄養学実習」の課題取り組みに活用すること。